

動物公園・ボランティアとの協働による巨大カボチャの栽培・展示とイベントなどの活用について

磯部実・荒木大蔵

はじめに

平成27年度サマーフェア（7月11日（土）～8月31日（月））の期間中、'巨大'をテーマに巨大カボチャ（品種名：アトランティック・ジャイアント）の栽培・展示に取り組み、スタンプラリーのポイントや収穫後は10月の秋のグリーンフェアのハロウィンの写真撮影コーナー用装飾などに活用した。

カボチャ栽培には動物公園の動物堆肥を利用し、植物公園の巨大カボチャと動物園のゾウなどの動物との食物連鎖を写真入の説明看板を掲示してアピールした。

巨大カボチャの栽培・展示についてはこれまで栽培記録第30号、第33号に記録しているが、これまでと違った手法もあるので、新たに記録を掲載する。

準備作業と植付け

栽培・展示場所はこれまでどおり大温室前のワシントンヤシモドキ並木の樹間に4株を定植することにした。土づくりのため、1月8日に直径約1.5m深さ約50cmの穴を掘り、安佐動物公園より導入した動物堆肥30ℓを元肥として底に敷いた（図1. 参照）。さらに4月28日植穴の用土にパーク堆肥20ℓ（大温室植物チップをもとに作成した自家製）、牛糞20ℓ、粒状鶏糞7kg、油かす5kg、苦土石灰300gとともにすき込んで植え床とした。

種子は4月8日に3号ビニールポットには種し、最低温度20℃（スイレン温室）で管理し、本葉の展開がそろった時に最低温度10℃のビニールハウスへ移動し、その後5号プラ鉢へ鉢増しした。本葉5～6枚展開した苗を、植え床1か所当たり有機入り粒状複合成肥料「ペレックス（8-8-8-1）」を120g施用し、植え床へ定植した。

定植後、保温を兼ね雨による泥はねを防ぐために苗株元周辺には防虫黒マルチビニールを敷き、ウリハムシなどの被害を軽減するためオル

トラン粒剤を株もとに散布した。さらに苗が勢いづくまで2週間程度風除け用のビニールシートで囲み（図2. 参照）、6月上旬に雑草の防止と蔓伸張を助けるために剪定チップ（大温室植物の剪定チップ）を株周辺の広い範囲に敷きつめた（図2. 参照）。

栽培管理・生育状況

6月16日親蔓を摘心。子蔓が4～5本伸びだした頃、生育のよい子蔓を1株に2本残した。子蔓がそれぞれ20節程度を目途に交配・着果させ（6月24日より開始）、果実が順調に肥大しているものを残し子蔓1本1果に制限した。交配・着果したものにはテープに交配日等の記録を着け、展示用果実選抜の参考にした。

追肥として5/20、5/24に液体肥料（ハイポネックス1000倍液）7/15にペレックスを1株当たり100g施用した。

6月中旬にオンシツコナジラミとうどんこ病が発生したので6/24に薬剤散布（殺虫剤アグロスリン、殺菌剤ダコニール）を行った。

6月上旬より子蔓の脇芽を取り除く作業が多くなった。6月下旬より花蜂の飛来が多くなり自然交配するもの多くあり、果実の肥大状況を見ながら、人工交配を適宜行った。また着果初期には一本の蔓に数個を着果させ肥大状況を見ながら余分な果実は早めに摘果した。着果後は急激に肥大を始め、8月中旬には最大の果実で直径58cmになった。果実がある程度大きくなった時点で防草シートの座布団をはかせ、蔓を持ち上げて裂ける恐れがあるため、早めに果実の元の蔓を持ち上げて余裕をもたせておいた。

果皮は生育中淡黄色だが、成熟すると朱色のきれいな色になった（図3. 参照）。8月中旬にはほとんど成長は休止し、8月下旬には枯れ葉や枯れた蔓が目立ち始めたので見苦しい部位は切除した。9月下旬には果実は蔓から切除し、大きい果実5個の重量等を計測し（表. 参照）、大温室ロビー前の軒下に展示した。また、9月から再び茎葉の繁茂が活発になり、開花自然交配・結実で数個の果実の肥大が見られ、15kg以上の2個をミニカボチャ展示コーナーへ追加展示することができた。

入園者への対応

サマーフェア期間中毎日開催されたスタンプラリーのポイントとして巨大カボチャ植栽・展示場所近くにスタンプ台が設置されたので、多くの入園者に巨大カボチャの栽培状況をアピールすることができた（図3参照）。

秋のグリーンフェア期間中は、収穫した巨大カボチャをグリーンフェア実行委員会製作のハロウィンをテーマにした撮影コーナーに友の会ボランティアにより装飾展示し（図4参照）、その後大温室玄関前にカボチャ品種ミニ展示コーナーを設け、食用カボチャも含め4～5種を展示した。多種類を比較展示し、カボチャを通して植物の多様性を入園者に提示した（図4参照）。

安佐動物公園では冬至の12/22に、本園の提供した巨大カボチャをゾウやヒビに食べさせるイベント「元気に冬越し、冬至はカボチャ」を開催した（図5）。また昨年からは広島市森林公園昆虫館で10/31に開催した夜間開園「ハロウィンむしむしおばけ屋敷」のイベントで本園のカボチャを昆虫館入口に展示した（図6）。

課題とこれからの指針

巨大カボチャは、市販品種「アトランティック・ジャイアント」の種子を購入し栽培・展示したが、更なる展示効果を上げるためには、他の品種あるいは優秀な系統の導入が必要であろう。

巨大カボチャはサマーフェアのスタンプラリーポイントになるため、巨大カボチャの着果・肥大は7月中旬にはある程度の大きさが必要なため、これまで実施してきたは種、育苗、定植の時期を早め、定植後はビニールトンネルなどで被覆・促成することで適期に着果・肥大を図ることができると思われる。

現在地はヤシ並木の空き地を利用している栽培・展示場所なので必ずしも栽培適地では無く、また8年連作しているため、肥大中の果実が途中腐敗する病気やうどんこ病とオンシツコナジラミの発生がみられ、他の適地の選択が必要であろう。

今年は栽培展示のみならず、サマーフェアのスタンプラリーポイントやグリーンフェアの装飾、森林公園昆虫館や動物公園のイベントなどに有効に活用できたので、今後さらに活用機会を増やし、多くの人にカボチャを通して植物の面白さを知ってもらいたいと考える。

表. 平成27年巨大カボチャ（品種：アトランティック・ジャイアント）計測表

番号（重さ順）	直径×長さ（cm）	重さ（kg）	色彩、形その他
1	58×47	57	オレンジ、カボチャ形
2	40×45	33	オレンジ下半分緑、ウリ形
3	49×40	32	濃オレンジ、カボチャ形
4	40×45	26	オレンジ、ウリ形
5※	35×45	25	オレンジ、9月以降に自然交配結実
6※	35×40	18	オレンジ、9月以降に自然交配結実
7	33×35	17	オレンジ

直径、長さ、重量は9月30日計測

※は11月11日計測



A



B



C

A:26年12月動物公園堆肥舎より堆肥運搬

B,C:1月に直径1.5m深さ50cmの穴を掘り動物堆肥を施用

図 1. 巨大カボチャ定植準備作業



A



B



C

A:5月11日定植

B:定植後風除けビニールシート施用

C:6月に大温室植物の前定チップマルチ施用

図 2. 巨大カボチャ定植準備作業



A、B: 生育肥大中の巨大カボチャ
C: 生育状況の計測調査

図3. 8月の巨大カボチャ生育状況



A: 大温室ロビー前でのミニ展示

B, C: 秋のグリーンフェア期間の
ハロウィン記念撮影コーナーの
展示

図4. 10月のカボチャ展示状況

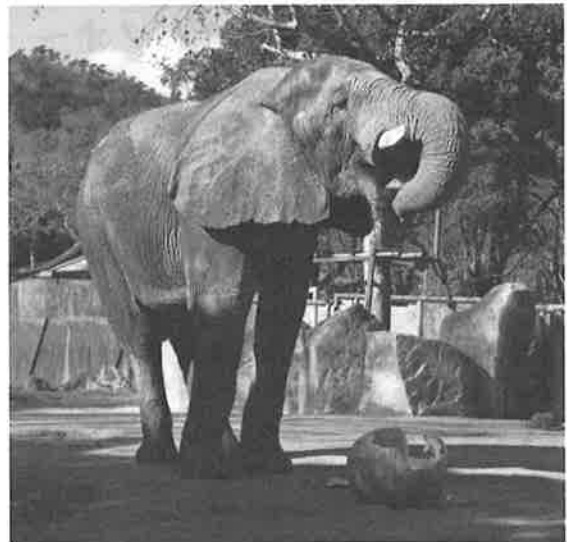


図5. 安佐動物公園12/22の冬至イベント
「元気に冬越し 冬至はかぼちゃ」に植物公園で
栽培した巨大カボチャをゾウなどにプレゼント



図6. 広島市森林公園昆虫館で10/31ハロウィンイベントで
本園の巨大カボチャを展示